

市民の声とインターネット

吉村順子

junko@suehiro.nakano.tokyo.jp

Challenged

「Challenged」ということばをご存じでしょうか？

以前、会話のなかで「Handicapper」ということばを使ったら、友人に「Challengedだよ」と直されました。日本語では「障害者」ということばで表されていますが、英語では積極的に挑戦を続ける人という前向きなニュアンスが感じられます。

阪神・淡路大震災が起きてから13日目のことです。私は宝塚市を訪れました。坂上正司さんに会うためです。坂上さんは高校1年の時、ラグビーの試合中に頸椎を損傷して首から下が動かなくなりました。しかし、一本の指先だけ、かすかな感覚が残っており、現在はその指でパソコン通信をしています。坂上さんは、ボランティア団体の「プロップ・ステーション(prop.or.jp)」が運営するプロップネットの運営を担当しています。

その日、坂上さんは寒いのに電動車椅子に乗って、途中まで出迎えてくれました。道の両側の家は崩れ落ち、塀は傾いてつかえ棒で支えられています。「あの家の同級生のお父さんが亡くなった」というような話を道すがらいくつも聞かされ、地震で日常生活が根こそぎ破壊されたことがよくわかりました。

日頃、地域活動を活発にしている坂上さんは、震災援助物資の配分などの指揮に連日あたっているということでした。被災したChallengedがChallengedでない被災者への支援活動をしていると聞き、そのたくましさ胸を打たれました。同時に私は、自分にも人のためにできることが必ずあるはずだと気持ちをも新たにしました。

本棚からテレビが落ちるなどの被害は多少あったものの、坂上さんの仕事場は無事でした。車椅子のまま出入りできるように、段差のない玄関や自動ドアが設置されています。また、パソコンには坂上さんの体に合った入力機器がセットされており、自由に電子空間をナビゲートできるのです。

いろいろな事情でなかなか外出しにくいChallengedにとって、ネットワーク通信は社会との大きな接点になります。最近、プロップネットはUNIXマシンをゲートウェイにして、インターネットとのUUCP接続を始めました。プロップネットをおもな活動場所としているChallengedのみなさんの電子空間が一段と広がることは、ネットワークの可能性が広がることでもあり、とても期待しています。

しかし、個々の通信環境の構築には、状況に応じたオーダーメイドのきめ細かさが必要です。ときには機器のセットアップ支援のために何回も通わなければいけないこともあります。

プロップネットの運営母体でChallengedの自立支援活動を行っているプロップ・ステーションでは、これまでボランティアらによって本当に地道な作業が積み重ねられてきました。そして現在では、ネットワーク環境が整備され、ほとんどChallengedの在宅作業によって会報『フランカー』が編集・発行できるまでになりました。

私も、東京地区でそうした活動のための場を作ったり、ネットワークを活用したい人のための技術協力などを続けていくことにしています。しかし、まだ私の周囲では普及のための人手が絶対的に足りません。休日に、Challengedへのネットワーク通信の普及活動をボランティアに継続してやってみようという方や、興味のある方は、私のメールアドレスか、末廣ハウス(FAX:03-5340-5242)へご連絡ください。お待ちしております。



InterVnet ☉<http://sh.suehiro.nakano.tokyo.jp/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp